

意欲的な子どもに育てるために

—学習・生活習慣の具体化と数量化の試み—

足利市立御厨小学校

高田 健司 小島 康子 佐口 純一

1 序 論

本市の学校教育指導計画はここ数年来、その重点目標の中で、教育の重要にして基本的な課題として、基礎的能力の向上を掲げ、その具体的方向のひとつに

自主的学習態度の育成

をあげている。

思うに、これは「自学自習」「自主自立」「進取の気象」「進んで勉強」等いずれも明治この方百年戦前・戦後を問わず掲げられてきた目標と共通するものであり、今に始まった課題ではないように考察される。

そして、その方策については、こうすればこうなるという絶対的な決め手はないように思われる。われわれがここに模案の一端を紹介し御批判を受けようとするのもそのためである。

次に、その試行錯誤に対する考え方を要約し、実践記録を御判読いただくための一助としたい。

学習意欲について、心理学者マズロー(米)は、その心理的構造を明らかにし、およそ次のように述べている。

欲求は階層的体制をなすものであり、従って学習意欲もまた孤立してあるのではなく、基本的欲求に支えられてあると規定している。

即ち、より低い欲求が満たされた時、次の欲求が行動を規定するのであり、学習意欲を規定するものは、自己実現の欲求によるものである。

さらに学習意欲は親や教師から与えられるものではなく、本人の内部から発生してくるものであって、ベニヤ板とはちがうものである。

ことを明らかにしている。

われわれが標題に掲げた意欲も、自主的学習態度もマズローの分類をもってすれば、最も高次の自己実現の欲求に分類されることになり、自主的、意欲的という概念もその心理的構造については同じ分類に規定されるものと考えられる。

さて、意欲を喚起するためには、一般にその心理的要因として、興味づけ、動機づけ等があげられるが、マズローの考察をもってすれば、それは一時的要因にはなり得ても永続性に欠けるものであり、その意欲が持続され内部生命として働き続けるためには、自己実現の欲求を支える承認への欲求が満たされなければならない。

そのためには目標が具体的・客観的に明示され、目標に到達した成功感、満足感と、その事実が自分自身および社会的にも承認されることが先決となる。またそのことによって新たな意欲が芽生えるという心理的過程が想定される。

われわれが、ここに目標達成のための具体的方向として、数量化・具体化をとりあげたのもそのためであり、それによって客観的な事実が承認され、児童個々の欲求が満たされると考えたからである。

特に配慮した点としては客観的な記録にもとづく自己認知と自己実現の欲求の充足を企図したことであることを付言し序論としたい。

2 実践記録(学習指導)

(1) 学習進度表

学校教育が文化遺産の伝達をその主たる使命とする限り、学習内容の定着に心血を注ぎ、すべての児童に、その能力に応じて教育を施さなければならないことは、自明の理である。

しかし、ともすれば、一部の児童の理解度を観察して、進度を決定し、先行してしまふ場合は、長年の教職生活をふりかえってみた時、だれも等しく経験してきていることであろうと推測される。

この主観的観察による診断を、いくらかでも是正し、具体的、数量的な認識に基づいて診断し、多少なりとも診断をより確かなものとし、ひとりひとりの学習が、より多く、より確実に定着するようにとの配慮から作成を試みたのが、この学習進度表である。

年度初め、指導計画作成にあたって進度を協議し、同時にこの進度表について、その内容、項目について検討してみたが、あまりにも多岐に分かれ、教科によっては、その分類もむずかしく、ついに放棄してしまった。

せめて、どの教科についても活用できるような欄だけでも、と創案したのが、資料①に掲げる進度表である。

これは、各自が教師の指示によって内容を記録し、同時に、自己評価も兼ねられるようにとの配慮から作成したものである。

こんなものでも、これによって、児童の学習への興味と関心は、一段と増し、積極的、意欲的に学習に取り組むようにはなった。

資料 1 学習進度表(家庭学習は赤)

家庭へ

教科	学習内容	評価	検印	教科	学習内容	評価	検印	
国社算理他				国社算理他				
国社算理他				国社算理他				
評価	○ 一問の時 ○ 二問の時 ○ 三問の時 ○ 四問の時 ○ 五問の時 ○ 六問の時 ○ 七問の時 ○ 八問の時	2問正解 1 " -A " -B " -C	3問正解 2 " -A 1 " -B " -C	4問 2~3 -A 1 -B " -C	4~5問 2~3 -A 1~ -B " -C	7~8 -A 3~6 -B 1~2 -C	8~9 4~7 1~3	9~10 5~8 1~4

だがその記入と整理に多くの時間と労力を費し、途中で挫折してしまった。

しかし、今にして考えれば、多くの承認と、賞賛の機会をつくり出し、学習の定着をより確かなものとするためには、必要不可欠のものであり、次年度の課題として考えたいと思っている。

さらに、要望としては、教科研究部等が中心になって、教科別、領域別に内容を精選し、学習内容(指導事項)を記入し、同時に自己評価欄、教師の評価、承認欄、そして、さらに父母の承認欄等も付け加えて作成し、配布されたら、指導計画と相まって、その効果はすばらしいものが期待できるのではないかと思われる。

残念ながら、われわれは力およばずして、これをテスト一覧として、資料③に置きかえてしまった。

(2) 漢字当番

新教育課程は、教育漢字の大幅な増加を提示し、漢字学習の児童の負担は、より強化されることになった。

それだけでなく、従来、漢字力の劣る現在の児童に、その定着をはかるために、いろいろ苦心してきたのであるから、この改訂によって、この面の指導は今後なおいっそうのくふうが要求されてくるものと予測される。

研究会その他で、他校を訪れた時など、漢字指導がどのように行なわれているのか、常に関心をもって伺ってくるのだが、それぞれいろいろとくふうされているのを見聞して、参考としてきた。

小黒板や画用紙の短冊などを利用し、学習の前後を通じてのドリルや、朝学習、帰りの5分間テストなど、どれもたいへん参考になった。

しかし、その定着には、なお多くの問題を含み、思うにまかせぬ現状ではないだろうか。

そして、われわれもまた、大同小異の経験と、試行錯誤を繰り返しながら模索し、研究中であるが、ここにその一つの試案を披露し、ご批判をえたいと思う。

種々試行錯誤の結果、われわれのさぐりあてたものは、これを児童の手にゆだねるということであり、それが、見出しの漢字当番である。

その当初、学級ごとに当番を決めて出題してきた。出題は、国語の既習教材から、当番が適当に15問を選択して、前日提示し、翌朝うち10問を出題することとした。

採点は、出題した児童があたり、10回を合計して、100点満点とすることにした。そのうち、当番がなまけたり、出題がやさし過ぎたり、採点が不正確であったりなど、問題点がいろいろでてきた。

全体としての志気も衰え、着実に努力する児童、適当にやっている児童、そして諦めて全然練習してこない児童に三分されてきてしまった。

その他、いろいろの問題もでてきたが、ともかく児童の手にゆだねることによって、教師が出題するよりは、はるかに意欲的に練習するようになったのは事実である。

B児は、これを作文に、次のようにつづっている。

漢字当番

5年小暮幸代

わたしたち5年生は、1時間目の授業が始まる前に、漢字テストをします。

漢字当番は、前の日のお昼休みに、つぎの日にするテストの漢字を決めて、その漢字を黒板に書き、つぎの日にテストをして、それぞれ他の組と交かんし、まるつけをします。

自分が漢字当番になった時は、

「自分たちで決めた漢字なんだから、全部できなくては、みんなにわらわれてしまう。」と、思いながら、いっしょうけんめいやりませう。

当番でない時は、漢字当番の時よりいっしょうけんめい気がらくです。でも、

「みんなにまけてたまるか。」

と、思いながら、いっしょうけんめいやりませう。

漢 字 当 番

5年 境野 香子

きょうはわたしが漢字当番だ。おひる休み、遊べなくなるので、とてもさんねんだ。

漢字をえらびはじめると、みんなしんけんになってくる。

「この漢字は、この前出題されたからだめだ。」

「この漢字は、やさしすぎる。」

「むずかしすぎる。」

とか、いろいろ言い合ひ。

わたしが漢字当番の時、やさしい漢字と、むずかしい漢字を、同じぐらいの割合で、出題しているつもりだが、時々、

「きょうの漢字は、むずかしすぎる。」

などと言われると、そのことばが気になってしまう。

漢字当番は、実にむずかしい仕事だが、みんなが、早く満点をとってくれるようにと思ひながら出題するので、やりがいもある。

×

×

学級全体の志気を高め、意欲を喚起するために、これを学年全体で同一問題を出題し、学級対抗にして、競争させることにした。

結果は、10回ごと、の平均点を、学級ごと、男女別にグラフに揭示し、競争心を刺激することによって、関心と意欲を高めるよう配慮した。

これによって、漢字学習は、全く児童の主体的学習に移項し、徐々にではあるが、漢字力の向上を見ることができるようになった。

(3) 計 算 練 習

漢字力とあわせて、どうしても練成しておかなければならないものは、計算力であろう。

昔の教育を評して、読み、書き、そろばんとは、よく言ひあてたものである。現代教育が、いかに思考力や洞察力、発表力などを力説しても、その基礎となるべき力の養成なくして、成立しえないのではあるまいか。

読み、書き、そろばん、が、当面の教育目標ではないにしても、やはり目標達成のための手段として、あるいはその素地として、じゅう分に培われなければならないのではないだろうか。

高学年で、文章題や、各種の数量関係の問題を考えようとする場合にも、計算力が劣るための、時間の浪費、理解の遅滞はまぬがれない。

どうしても、もっと計算力を高める必要がある。しかし、いざ、それを実施する段になると、

方法は、簡単のようで、むずかしいことに気づいた。

単に、計算力だけに集中しての研究ならともかく、全教科、全領域を指導しながら、同時に計算力を高める指導を、どこで、どのように強化すべきか

- 毎時間、算数の学習の前後
- 目標を明示する
- 朝学習で自学自習させる
- 進級表をつくる
- 放課後、一定時間を特設する
- ワークブックを使用する
- 一斉テストを行なり
- ……………

等々、いろいろな方法が考えられたが、要は、短時間で反復練習できること、そして、課題を明示し、自学自習によって、自ら努力していこうとするようなシステムをつくることであろうと考えた。

市販されている資料も豊富であり、どれをとりあげてもよさそうなものであるが、どれを、どのような形でとりあげるか、となると迷った。

量的には、多からず、少なからず。質的には、基礎的なものを、しかも、短時間で、継続的に持続されるものでなければならぬ。

種々検討の結果、われわれは、これを教科書の問題の中から精選して出題することにし、300題を抽出して問題集を作成した。

出題は輪番制とし、出題カードを、児童に決定させることにした。これは、児童に抽せんという形で、出題に参加させることにより、意欲を喚起し、自学自習の体制を確立しようと企図したものである。

さらに、10回をまとめて100点満点とし、1点を1ミリとして、各人のグラフに表わし、一学期を通じて、結果を数量的に、一目で概観できるように配慮した。(資料⑪)

これによって、意欲の啓発を計り、継続化を意図した点は、漢字の場合と同様である。

なお、これについての、児童および父母の声は、次のとおりである。

1. 児童の声

1. 家の人々が時々みてるようになった。
2. 兄といっしょに勉強ができるようになった。
3. 学習じゅくへ行くはりあいがある。(先生に答を正してもらえるから)
4. 自分の平均点が上下するのでおもしろい。
5. おとうさんが教えてくれるようになった。
6. 家の人に「勉強しろ」といわれなくなってきた。

2. 父母の声

1. 文章題には手が出せないが、計算だったら子どもとともにやっていけます。
2. 子どもが机に向かうようになりました。このまま学習くせがつけばと思っています。
3. 結果がグラフになるので、はりあいをもっているようです。
4. テレビの音が大きいと「計算中ですよ」と親が注意されてしまいます。
5. 結果のグラフを見て、親子で話す時間が持てるようになりました。

(4) 発言記録

平常の学習における教師の発問と、これに反応する児童の発言、発表は、授業を展開する上につきわめて重要であることは言うまでもない。

この発問と発言こそ、学習活動の要諦であり、思考活動を深化・拡充・統合していくためにも、授業の展開には不可欠の要件であろう。

しかし、その発言なり、発表なりが、一部の児童に偏し、一問一答型の単調な展開に流れやれいのも、われわれの常であった。

このことを反省し、いかにして、より多くの児童の参加を得て学習を展開させるか、また、単に多くの児童の参加をえるだけでなく、ひとりひとりの学習活動、発言意欲を喚起するかについて研究協議してみた。

ひとりひとりの発言意欲を誘発し、より多くの児童の参加をえて、集団思考による学習活動が展開されるためには、まず、教師の発問がじゅう分に練られ、くふうされ、研究されてなされなければならぬことが確認された。

しかし、同時に、児童の発言意欲の喚起もまた、重要であることに思い至った。

これも、すでに多くの学校で試みられている方法かと思われるが、われわれの試みてきた方法の一部を紹介し、ご意見をいただきたい。

① 一日の各自の発言を座席表に教師が記録し、背面に掲示する。

② 各自に発言カードを持たせて、毎時間の発言を記入させ、一週間ごとに集計し、グラフに掲示する。

③ 個人別の発言記録用紙（日本の幹線鉄道地図）をつくり、一か月ごとに集計し、各自のグラフに記録する。（資料②「日本一周発言旅行」）

これらの方法を通して、児童の発言意欲がどのように喚起されたかは、次に、児童の生の声を収録し、参考としたい。

日本一周発言旅行

5年 笠原 栄子

わたしたち5年生は、「日本一周発言旅行」という表をつけています。発言旅行というのは、発言をして、日本を一周して行くことです。

わたしは、2回ぐらいやっても、日本一周したことがありません。みんなは、早く、一周したくて、どんどん発言しています。

でも、わたしは、一周したいことはしたいのですが、手をあげるゆりきがありません。どうして、わたしはゆりきがないのだろうか。

5年生の時ではありませんが、1回、手をあげて、まちがえたので、みんなに大変わらわれたことがありました。それから、手をあげるのが、いやになってしまいました。

わたしも、いつかは、みんなと同じように一周してみたい、と思っています。

発言旅行は、わたしの発言するのを、ゆりきづけているようです。

日本一周発言旅行

5年 齋藤 光市

二学期のはじめから発言旅行ができて、3枚めだ。ぼくは、発言旅行が始まってから、だいぶ

発言できるようになった。

それは、発言するたびに、白いまるを赤えんぴつで一つ一つうめていくのがたのしいし、みんなより発言している時は、きもちがいいからだ。

それから、わからないもんだいがあっても、すきでない問題でも、発言旅行が、みんなに負けたくないの、いっしょうけんめい考えたり、教科書を読んで調べたりする。

やっとできても、先生にさされないと、発言旅行には赤まるはつかない。そんな時はがっかりしてしまう。

でも、やっと自分で考えたり、教科書を読んだりして、やっとできた時はうれしい。

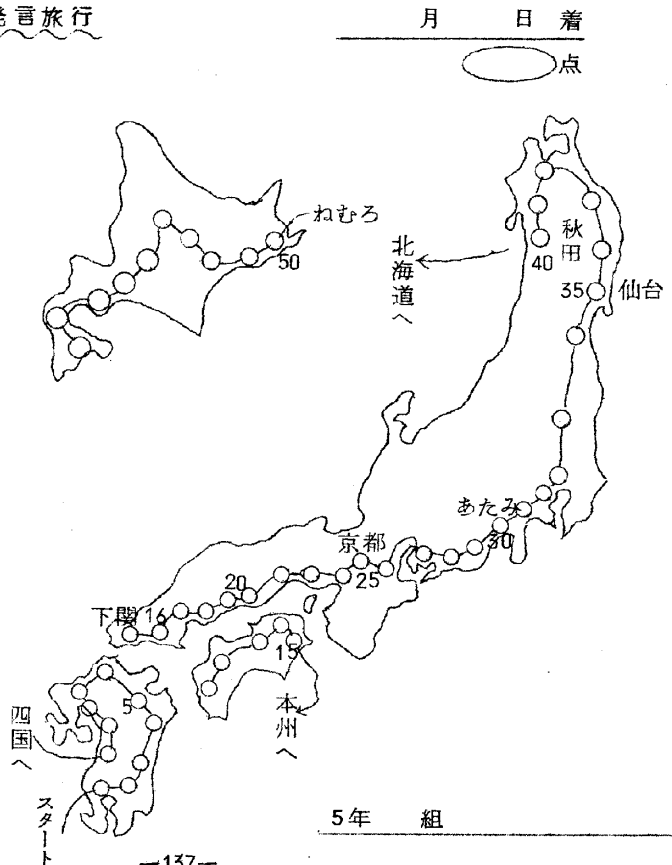
これを始めてからは、だんだん自信がついてきたような気がする。発言旅行は、そんなことでいいと思う。

かくして、これらが有効な手段として定着されるためには、一時的な刺激であってはならないことも、改めて認識させられた。

やはり、学期、または年間を通じて集約され、各人の足跡が明示される必要があることに気づいた。

そこで、これを諸調査とあわせて、一枚のカードに集約整理することにした。資料①がそれである。

資料② 日本一周発言旅行



(5) 評価一覽

小学校も高学年になると、成績物を、父母に全部渡す者は半数足らずとなり、父母もまた、「どうせうちの子は」というような気持ちから、3回に1回、あるいは月に1・2度、思いついたように関心を示す家庭も多くなっていくのが実状である。

特に、父親に至っては、通信票しか見ることもなく、叱るために子どもの成績をのぞく、といった例さえ少なくない。

このような実態に対処すると同時に、他方、児童自身に、学期の見通しと計画を立てて学習にはげむための資料として、また、自分の学習や努力の足あとを集録して、反省の資料としても役だてたい。

そんな願いから作成したのが、資料⑨のテスト一覽表である。

数量化という点では、あえて付言する必要もないと思われるので省略するが、むしろ、結果にとらわれて、本末転倒の教育におちいるのではないか、という危惧の念を感じていた。

しかし、現状では、むしろ毎時間の学習に、意欲的に取り組むようになり、「よし、今度こそは」という気概の満ち満ちてきたのを感じ、作ってよかった、と、思っている。

最終的な結果については、後日にゆずるとして、一母親の感想を、次に掲げ参考としたい。

テスト一覽表について

E・N

今までは、結果の思わしくないテストは見せようとはしなかったのですが、最近では、

「今度は50点だったよ。だから平均点がさがっちゃった。このところをこう書けばな。次のテストは70点取るようにがんばるよ」

と、たとえその結果が思わしくなくともグラフにした一覽表と共に見せに来るようになりました。そして、自己反省と次に対する目標と対策を立てているようです。こんな時、母親として、はげましの言葉をかけてあげたり、できる相談にはのってやるのが前よりも数が増しました。

たとえ自分の得点が学級平均に達していなくても、自分の力の結果をグラフ化し、自分としての目標をしっかりとつかむことは、学習意欲向上のもとだと思います。

このテスト一覽表は、各自にしっかりした目標を持たせるよい資料になると思います。

資料⑨

テ ス ト 一 覧 表 5年 組 名 前

番	月日	内 容	学級平均	得 点	50
2	／	七 文章を書き直す (一)			
3	／	七 文章を書き直す (二)			
4	／	八 げきをする			
5	／	九 報道文を読む			
6	／	十 物語を読む			
7	／	十 物語を読む			
8	／	三学期用診断テスト〔1〕			
9	／	三学期用診断テスト〔2〕			
◎	／	学 力 検 査			
平均					

番	月日	内 容	学級平均	得点	50
1	/	17 整った形			
2	/	18 分数のかけ算とわり算			
3	/	19 時間のかけ算とわり算			
4	/	20 速 さ			
5	/	21 問題の考えかた(3)			
6	/	22 5年のまとめ			
7	/	22 5年のまとめ			
8	/	3学期用診断テスト〔1〕			
9	/	3学期用診断テスト〔2〕			
◎	/	学 力 検 査			
平均					
1	/	18 酸素と二酸化炭素(1)			
2	/	18 酸素と二酸化炭素(2)			
3	/	19 ねん料とほのお(1)			
4	/	19 ねん料とほのお(2)			
5	/	20 ま さ つ			
6	/	21 電じしゃく(1)			
7	/	21 電じしゃく(2)			
8	/	3学期用診断テスト〔1〕			
9	/	3学期用診断テスト〔2〕			
◎	/	学 力 検 査			
平均					
1	/	(一)商品の流れ(1)			
2	/	(一)商品の流れ(2)(3)			
3	/	(二)産業の発達と商業のあゆみ			
4	/	(三)新しい時代の消費生活			
5	/	(一)陸上の輸送			
6	/	(二)海と空の輸送			
7	/	国土の開発と産業の発達			
8	/	三学期用診断テスト〔1〕			
9	/	三学期用診断テスト〔2〕			
◎	/	学 力 検 査			
平均					

〔生活指導〕

(1) 生活ノート

名称は仮りにつけたものであり、いわゆるメモ帳とか、学習予定表などの名目で、児童各自が用意し、必要に応じて、学習予定や必要な用具、宿題などを記入していたものに代わるものとして作成したのが、このノートである。

各自に自由に記入させて、指導した結果を見ると、メモ帳をじゅう分に活用しているような児

童は、忘れ物や、準備の不足も少なく、これの必要な児童に限って、ほとんどメモもされておらず、メモ帳なども用意されていないのが現状であった。

この種のメモ帳については、市販のものもいろいろ刊行されており、それらを利用させてみたこともあった。

しかし、いずれも公約数的なものが多く、必要にしてじゅう分なメモ帳は見つからなかった。そこで、よりより先生方と協議の結果、市販のものや、従来指導し、取り扱ってきたような内容を検討して作成したのが、資料④に掲げる「生活ノート」である。

◇ 利用と効果 ◇

これを全児童に持たせ、同じ内容のものを板書して、その徹底を期した。

その結果、忘れ物は半減し、学習にも積極的に取り組むようになり、さらに、父母からも「子どもの学習状況や進度がわかって、とても参考になる」

と、絶賛の好評を博した。

なかでも、予想以上に好結果をもたらしたのは、

- お知らせ・注意
- 提案・意見

の欄であった。

お知らせ・注意 は教師および係りから、提案・意見 は日直から出され、不足があれば全員で補足することにした。

一学期中に出示された 提案・意見 のおもなものは次のようなものであり、これは同時に、父母が子どもの学校でのようすを知る上に大きな手がかりにされた。

〔提案・意見〕

- | | |
|-------------------|---------------|
| ○ ろうかやかいだんは静かに | ○ テーブルかけをしこう |
| ○ うがいをしよう | ○ 授業中は静かに |
| ○ 天気のよい日は外へ出よう | ○ せっけんで手を洗おう |
| ○ ベルマークを集めよう | ○ 先生の話しはよく聞く |
| ○ 忘れ物をしないように | ○ はいせん中はきちんと |
| ○ そりじの身じたくをしよう | ○ そりじはしっかりやろう |
| ○ 下校れいになったら早くかえろう | ○ きまりはきちんと守ろう |

願わくは、学級経営部会等を中心にして、これを検討し、改善を加え、低・中・高学年に応じたものが刊行されたら、安価にして、最良のものが、より有効に活用されるのではないだろうか。次に、児童の1頁を参考までに掲げることとする。

朝の会(お知らせ注意)		帰りの会(提案意見)	
1	留学生しょうかい	1	漢字練習はきちんと
2	健康ノート	2	気温調べはしっかり
3	衛生けんさ	3	教室に花をかざろう
4	希望そりたん	4	黒板はきれいに
5	12日 体重測定	5	帰りの会はしずかに
明日の予定		連絡	
朝		残り勉強	国語 練習 1 算 80P の 1. 2
1	国 練習 2	家庭学習	社, 農業機械の おくれているもの
2	算 いろいろな平均をもとめる		国, 練習 1 の 4
3	社 いろいろな農業機械		算 82P の 1. 2
4	国 作文		算 テストのまちがえ
5	体 水泳(リズム)	提出物	
6			
放課後	はん長会	準備(用意)	グラフ用紙 あきかん 水 着
反省	人に気にさわることを言った	希望	しょうこう口そうじにもんくを言ってもらいたくない。

(2) 忘れ物調べ

どこの学校、学級でも、多く見られるこの種の調査は、一覧表として掲示され、グラフや図表などにくふうされているが、その活用については、多くを聞いていない。

われわれとてもその例外ではなく、ともすれば、調査のための調査に終始し、思い出したように、お説教や、父母の叱咤激励の資料とするなど、また時には、通信票に記入したりし、児童の反省を促すつもりが、なおさら児童を苦境に追いやるくらいが精々であった。

自らを戒め、意欲的にこれに立ち向かおうとするような資料としての活用はじゅう分ではなかったことを反省させられた。

ちなみに二・三の児童について、調査の結果を考察してみると、次のようなことが明らかになった。

ことを痛感した。

生活ノートにこれを位置づけたのも、そのためであり、次に、これを個人別のグラフにしたのもそのためであった。

◇ 調査の方法と活用

調査は、各グループ別に、一週間交替の当番制とし、誰れもが調査者として、記録当番に当ることによって、自覚を高めるよう配慮した。

さらに、これを長期にわたって記録し、累積結果を各自の一覧表に表示し、総括的な表彰の一項とした。

要は、児童の自覚に訴え、これを叱責、説教の資料としてでなく、賞賛と励ましの資料としての活用を考えることが肝要かと思われる。

その非をただし、自覚と責任をもって、本人が、主体的、意欲的に向上しようとする芽を育てるには、批判や非難、叱責やお説教よりも、その実態を承認し、事実を受容し、賞賛に値する糸口の発見に努めることがたいせつであることを、この調査を通じて、改めて認識させられた。

(3) 百 善 ポ

学習活動の啓発と、成果の定着もさることながら、基本的な生活態度の養成もまた、健全にして、有能な児童の育成には欠くことのできない重要な教育の要素であろう。

しかし、いざ実際指導に当たって、何をもち基本的な事項とすべきかは、極めてむずかしい。

われわれも、この点について大いに迷った。そして、思案の結果

- ・第1に、児童の実態を考察し、
 - ・第2に、通信票の性格、行動の記録を参考に
- して、項目を選定することにした。

できあがった第1案は、次のようなものであった。(資料④)

資料④

(第1案) 最近のようすをお知らせします 年 組 名前

1. 手悪さが多い 2. おしゃべりが多い 3. 落ち着きが足りない …… 10. 学習が停滞している その他 _____ _____ _____	1. よく努力した 2. 進歩している 3. 家庭学習をよくやってくる …… 10. 先生の話をよく聞いている
昭和 年 月 日	年 組 担任

(第2案) 私の生活 — 今週の反省 —

ことごと	月 日	/	/	/	/	/	/	合計
1. よく手があげられた								
2. 落ち着いて学習した								
……								
10. 掃除をまじめにやった								
1. 先生から注意を受けた。								
2. けんかをした								
……								
10. 人に迷惑をかけた								

これは、同時に、家庭と学校とを結ぶ通信連絡の一役も、もたせようとしたわけであるが、主観的であり、数量化にはおよばず、さらに、回収と整理が煩雑なため、思い半ばにして挫折してしまった。時あたかも、道徳副読本「新しい生活」(東書)5年の教材の中に、「黒まると白まる」という、金原明善の「万善ボ」について学習した。

これにヒントをえて画したのが、次に述べる百善ボである。

この項目選定に当っては、前に扱った「私の生活」-今週の反省-を参考に、初め、各自に項目をつくらせてみた。

その結果、公約数的な項目を取捨選択し、ねらいに合わせて検討し、これを善悪各4項目に集約弁別した。

そして、各1項目は、各自の自由とし、実態に応じて、担任および父母と相談の結果、つけ加えることとした。

その後、改訂に改訂を加え、現行(資料⑦)のような形でスタートしたのは、2学期も半ばからである。

その間、部会や学年だよりを通じて、父母に呼びかけ、協力を申し入れると共に、一方では、児童の個別指導をするなどして、その徹底を期した。

そして3学期、当初累計が100になったものを廊下に掲示して賞賛する予定であったが、これを資料⑧のような賞状を与えることによって、賞賛し、はげますことにした。

賞を受けた者は、再び0からスタートし、年間を通じて、何枚の賞を受けるようになるか、夢と希望を持って努力するよう配慮した。

1月末現在の受賞者は、すでに、どのクラスも3割を越え、なお黙々として、それぞれの目標に向かって努力している姿は頼もしい限りである。

しかし、まだまだいくつかの問題点がないわけではない。

問題点

そのおもなものは

1. 単に賞を受けるために、じゅう分な反省もなくなるをつける。
2. ある項目について見ると、いつになっても黒まるがついている。
3. 同じことを毎日言っても、やらない子はやらない。
4. 形にはまった行動しかできない子どもになりはしないか。
5. 形式的で臨機応変の処置がとれないような子どもになっては困る。

次に、これに対する父母の声を収録してみると、

- 子どもの行動がよくわかり、色々な面で役に立つ。
- 勉強、作業、その他何事にも責任をもつようになった。
- 白まるをつけたいために、しかたなく、それらしい行動をする面も見られるが、いつか子どもの気持ちの中に、自然の姿で現われてくることを期待している。
- 善行賞をいただいた時のよろこびようはたいへんでした。今でも、自分の机の前にはって、時々ながめています。
- 家で相談して項目を決める時、親がえらぶのに苦労する。

第 回

年 組

善 行 賞

昭和 年 月 日

足利市立御厨小学校

担任 高田健司

(4) 学級日誌と日直採点

標題と直接関係はないが、学級日誌もまた、生活指導には重要な手がかりとなるものである。

これまで、専ら市販のものを利用して、安易な指導を試みてきたのだが、一連の指導を進める中で、不要なものを省略し、必要な部分だけを拡大して、独自の日誌を作成してみた。

即ち、学習に関連ある事項は、これを中心に、別冊として各自記入することとし、(生活と学習の記録)事実と意見を中心に記録し、これを帰りの会に発表することによって、生活を見つめ、反省と改善の手がかりとすることにした。

○ きょうあったこと

事実に着目させ、学級暦の資料とする。

○ 気のついたこと

具体的事実在即して、生活についての感想、意見をもたせる。

○ 提案・意見

1日の生活当番を通じて、改善・注意したい点を提案できるようにしたい。

そんな願いから、これを3点にしぼった。次に、その1頁を貼付し、参考資料としたい。(資料⑧)

資料 ⑨

1月21日 火曜日	天気	雨	氏名	坂下, 境野
<u>きょうあったこと</u>				
1	プログラム委員会で決まったことが うしろの黒板にかかれた			
2	てんこう生のしゅうかいがあった			
3	ラジオ体操が中止になった			
4	雨のため体育が中止になり, 算数をやった			
5	家庭科学習ノートと道とくノートがかえされた			
6	書きぞめがはがされた			
7	新聞をはっておくところが, かわった			
8	給食用のとだなおき場所が, かわった			
9				
10				
<u>気のついたこと(これでいいのかなと思ったこと)</u>				
1	ガラスがよごれていた			
2	きょうは雨の日で, 室内でふざけていた人がいた。			
3	こままわしを, しょうこう口でやっていた人があった。			
4	岡ノ谷さんと藤野さんが休み時間に本のしゅうりをしていたので, いいことだと思った。			
5	漢字れんしゅうりははじまってもあそんでいた人がいた			
欠席者 齋藤さ 山本				
早退者				
ちこく者				
<u>ていあん・意見</u>				
1	ハンカチは身につけておこう			
2	学級文庫の本はだいにしよう			

◇ 日直採点 ◇

日直の位置づけについては、種々異論もあるが、当番活動として、教師指導のもとに行なわれる日直の活動は、教師・児童が直接対談として、その日の反省をするのには絶好な場を提供し、個別指導にも役だつ、有効な手段であると考えられる。

これを評価し、説教・叱責の手がかりとすることは厳に戒め、評価は、これを児童の手に委ねることとした。それが日直採点であり、ささやかな数量化への試みでもある。

採点は、次の日の日直が行なうものとした。採点項目及び採点規準は別紙(資料⑩)の通りである。

資料⑩

日直採点表

◇日直採点◇ 採点は次の日の日直がする 7点未満はやりなおし

月	日	日直名	採点項目	一窓をあける	二はきそうじ	三欠席をつける	四黒板を消す	五温度をつける	六つくえのせいとんをする	七たなのせいとんをする	八日誌をつける	九カーテンのせいり	十窓をしめる	合計点	採点者名
11.30		AY, IH		○	×	△	×	○	○	○	○	○	○	8.5	O H
12.7		OT, KH		○	△	○	△	×	△	○	○	○	○	7.5	O T

評価 ○=よい……1点 △=少しわるい……0.5点 ×=やらない……0点

3 記録の集約と活用

以上、これまで各種の調査や記録について、具体化、数量化を期して、われわれの実践研究の一部を見てきたわけであるが、これらの記録が、有効適切に活用されるためには、記録そのものが、直接児童に働きかけるように配慮することが大切であることを、幾度かの失敗から痛感した。

記録の収集、整理にあたって、考慮しなければならぬと感じたことは、およそ次のようなことである。

① 記録は継続し、積み重ねること

断片的な記録は、児童に働きかけることが少なく、自覚を高め、意欲を喚起するに至らない。

② 簡潔で処理しやすいということ

能力の低い児童にも容易に処理できるよう、簡明で処理しやすいものにする。

③ 頻度数を考慮し、不定期な事項は、省くこと。

頻度数の多いものは、記録に煩わしさを加え、長続きせず、少な過ぎるものは興味をそり失する。

また、不定期な事項は忘れ易く、記録が不正確になり易い。

④ 個人差、能力差の大きいものは省く

各人の努力に比べて、能力差が大きく左右するものは、劣等感や優越感を育て、落伍者を多く生む結果となる。

さらに、各人の環境や条件によって大差を生じる傾向のものは、同じ理由から、これを削除することが望ましい。

⑤ 累進・累加の原則を貫くこと

集約が簡便で、無理がなく、長期にわたる結果の累積がなされること、断片的な記録の欠陥に

評

教育課程の改訂にともない、つめこみ主義の知識偏重より脱皮して、基礎的知識の定着と、自主性、自発性、創造性の育成と、人間形成の面が強調されてきた。このことは、学習指導要領の内容が変わるだけでなく、指導法も変わらなければその目標は到達できない。

そのひとつの試みとして、本論でとりあげたテーマと実践の内容は、これからの教育のねらいに即したものとして、高く評価されてよい。すなわち、学習内容への興味・関心をたかめること、学習の努力、学習の結果に満足（テスト、評価、賞賛、自己認知等）がくりかえされることにより、学習への積極的な意欲が養成される。このプロセスにおいて、学習の結果から生活、行動にいたるまで具体的、数量的に客観視できることは、児童の自己洞察と自己実現につながるものとして効果的である。さらに、その基底になる情緒の安定と人間関係の調整とが配慮されていることは、児童指導、学習指導の望ましい実践といえよう。